

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要がある場合、あらかじめ公告する一定の日

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

■郵送物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

■電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)

■公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.teikokudenki.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 帝国電機製作所 〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地
TEL 0791-75-0411 (代表)



FSC® 認証紙と植物油
インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社 帝国電機製作所
Technologies for Blue Earth

[証券コード：6333]

Business Report

株主の皆様へ

第121期 年次報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

売上高・営業利益ともに過去

最高を更新いたしました。

Q 第121期（2025年3月期）の業績についてご報告をお願いします。

A 第121期の業績につきましては、売上高30,546百万円（前期比4.5%増）、営業利益6,055百万円（同24.0%増）、経常利益6,296百万円（同15.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3,811百万円（同22.0%増）となり、売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新いたしました。当社グループの主力となるポンプ事業を取り巻く環境は、主要顧客である化学業界において、中国では経済減速により大型プロジェクト減少等の動きが見られたものの、全体としてはアフターサービス需要や脱炭素化に向けた設備投資需要が堅調に推移したことや、米国やインドにおいて原子力向けの大型案件があったこと等から、増収増益となりました。なお、電子部品事業につきましては、近年収益性が低下しており、主力事業であるポンプ事業とのシナジー効果も少ないことから、2024年12月末をもって事業を停止したため、減収減益となりました。

Q 第122期（2026年3月期）の見通しをお聞かせください。

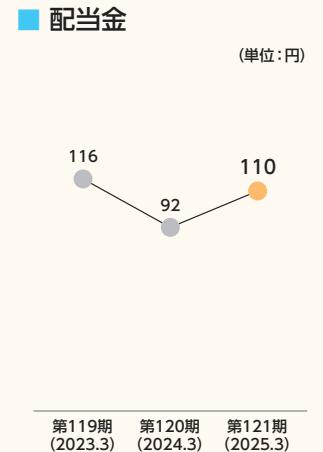
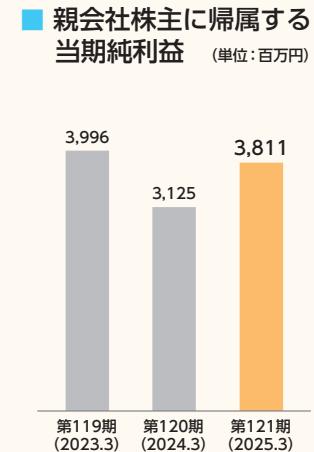
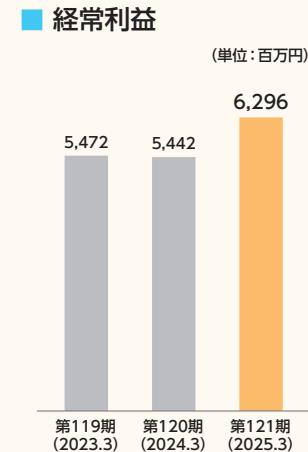
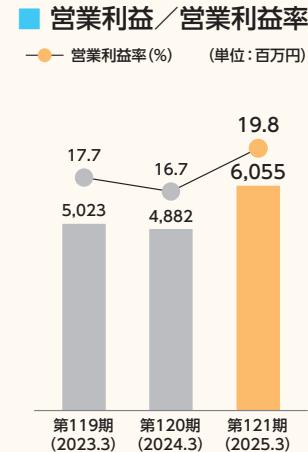
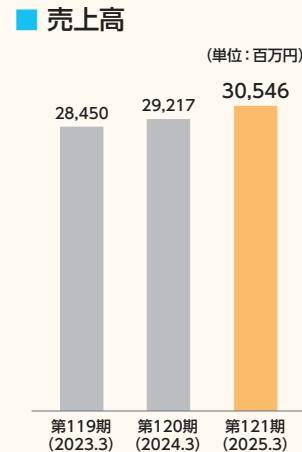
A 第122期の業績の見通しにつきましては、売上高27,520百万円、営業利益5,000百万円、経常利益5,120百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,700百万円を見込んでおります。売上につきましては、2024年12月末をもって電子部品事業を停止したことから、当該事業の売上が減少することや、ポンプ事業において高水準の受注残があるものの、中国経済低迷の長期化が見込まれ足元の受注も弱含みであること、また為替についても円高によるマイナス影響が見込まれること等から、通期で減収となる見込みであります。利益につきましては、売上高の減少や粗利率の低下、円高のマイナス影響等により減益となる見込みであります。米国の関税政策により、今後、各国の設備投資状況をはじめとした当社グループへの影響が懸念されますが、現時点で入手可能な情報等に基づき、業績見通しを算定しております。

Q 第121期における重点的な取り組みを教えてください。

A 第121期は、「環境貢献に軸を置いた成長戦略とサステナブル経営の両立」を基本テーマとして掲げる3ヶ年の中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）の一年目として、脱炭素市場開拓への対応強化に加え、女性活躍推進やグローバル人材育成等の人的資本の強化に取り組んでまいりました。脱炭素市場の開拓につきましては、脱炭素分野に特化した展示会に参加する等、従来のケミカル市場以外のお客様にも積極的に当社の製品をアピールいたしました。また、船舶関係では、これまでは引火性のある液体や漏れると危険な液体を扱うケミカル船等、製品供給対象が限定的でしたが、メタノールやアンモニアを燃料とするエンジン向け燃料供給システム用のポンプの販売拡大を目指しており、第121期は新たにアンモニア・メタノールDF（二元燃料）船の採用実績を作ることができました。今後も海事業界での当社の認知度向上や当社製品の供給拡大に注力してまいります。



代表取締役社長
村田 潔



(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株主の皆様へ

人財育成につきましては、女性活躍推進体制を強化し、第121期よりプロジェクトに格上げして、経営陣・総務人事・女性社員が三位一体となって活動を推進しております。2025年3月には、当社が「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ企業）」に認定される等、着実に歩みを進めております。

Q 新社長就任後の取り組みについて教えてください。

A 現在、世界的に脱炭素社会への移行が叫ばれており、当社を取り巻く外部環境は100年に一度と言っても過言ではないような大きな変化が訪れようとしています。これを当社のビジネスチャンスと捉え成長を取り込まなければなりません。

これまで当社は、キャンドモータポンプというニッチな分野の製品で、お客様のニーズに合わせながら用途開発を進め、ケミカル業界を中心にお客様にも恵まれたことで、着実に成長してまいりました。

そのため、「現状維持をよし」とする傾向があり、社員に対して行ったエンゲージメント調査においても「挑戦する風土」という項目に低い評価がつくなど、新たなことに挑戦する意識は高くありません。

変化を確実にビジネスチャンスに活かすためにも社員一人一人のマインドを変える必要性を強く感じたことから、執行役員全員が協議しグループビジョンを策定いたしました。

このグループビジョンでは、10年後のありたい姿を全役職員が共有し、現在の延長線上で物事を考えるのではなく、ゴールを起点に各自のやるべきことを考え、新しいことに挑戦することを目指します。ビジョン実現のために全役職員が自律的に活動することで、当社の社是「みんなで良くなる 誠実に事に当たろう 積極的にやろう」を体現する働きがいのある会社を作ってまいります。



また、ビジョンステートメントとして「変わるぞ TEIKOKU 圧倒的No.1への挑戦～世界の隅々に、唯一無二を、最速で」を掲げ、意識変革を図ります。

ビジョンの内容としましては、脱炭素社会への移行に伴い生じるシールポンプからキャンドモータポンプへの置き換え需要を確実に捉え、2035年までに連結売上高700億円の事業規模を目指します。当然のことながら、現在の工場規模では700億円を達成できる生産能力はないため、これをグローバルで拡大させていきたいと考えております。また、規模の拡大のみならず効率化にも取り組んでまいります。

次に、キャンドモータポンプ分野で圧倒的No.1を目指します。現在においても同分野においてはトップシェアを持っていると考えておりますが、納期と製品開発で他社との差別化を図り「圧倒的No.1」を目指します。人と地球環境にやさしいキャンドモータポンプを世界中に広め、持続可能な社会の実現に尽力してまいります。

そして後述の通り、名実ともにグローバル企業を目指し、長年慣れ親しんできた「帝国電機製作所」という社名を変更することにいたしました。

今後は主力のポンプ事業に専念し、更なる企業価値の向上に努めていくべく、2026年4月1日より、ポンプ業界においてグローバルに浸透している「TEIKOKU」を新社名とし、更なる飛躍を目指してまいります。

TEIKOKUグループビジョンステートメント

変わるぞ TEIKOKU

「圧倒的No.1への挑戦～世界の隅々に、唯一無二を、最速で」

社是を体現した働きがいのある会社へ

社是 **みんなで良くなる 誠実に事に当たろう 積極的にやろう**

ビジョン(10年後のありたい姿)

①2035年までに連結売上高700億円の事業規模を目指す

- グローバルで生産規模を拡大する
- 設計・生産効率化によるリードタイム短縮で顧客価値を高める

②人と地球環境にやさしいキャンドモータポンプで圧倒的No.1になる

- 脱炭素市場向けの製品開発を強化し、脱炭素社会への移行をサポートする
- 地域特性に応じた営業戦略を構築し、人と地球環境にやさしいキャンドモータポンプを世界中に普及させる

新社名「株式会社TEIKOKU」

当社は2026年4月1日付で社名を変更し、グローバルポンプメーカーとして更なる飛躍を目指します。

1939年に鉄道信号機等の製造を祖業として設立された当社は、戦後の混乱期を経て1960年にキャンドモータポンプの開発に成功し、現在では当該製品が当社の主力製品となっております。

一方、当社から子会社の株式会社平福電機製作所に引き継がれた電子部品事業は、事業ポートフォリオの見直しにより、2024年12月に事業を停止いたしました。

今後は、主力のポンプ事業に専念し、グローバルでのより一層の成長を目指して、業界内で海外においても浸透している「TEIKOKU」を新社名といたします。

海外グループ会社TEIKOKU USA 紹介

米国はキャンドモータポンプ発祥の地ですが、実は米国のケミカルポンプ市場における同ポンプのシェアは5%程度とされており、まだ非常に低い状況にあります。現在は液漏れを完全には防ぐことが難しいメカニカルシールを使ったポンプが主に使用されていますが、人体への影響や環境問題の観点から、ポンプとモーターを一体化し、取扱い液が全く漏れないことが特長であるキャンドモータポンプの需要が高まっており、同ポンプの高成長が期待できる市場です。

当社は1991年にTEIKOKU USAを設立し、米国市場に進出した後、2003年には世界で初めてキャンドモータポンプを開発したCrane社のChempump事業部を買収する等、米国におけるリーディングメーカーとしての地位を確立してまいりました。現在は、ペンシルバニア州に本社/工場がある他、オハイオ州とテキサス州にも工場を構え、直販や代理店を通して北米・南米のお客様に製品を提供しています。

最近、ペンシルバニア工場にて新シリーズの生産準備を進めている他、テキサス修理工場では、スピーディーなアフターサービス体制強化の取り組みを推進しております。



新シリーズの完成レセプションを執り行いました。

2025年3月25日、新シリーズであるASME B73.3 (※1) 準拠製品の完成を記念して、ペンシルバニア工場にてお客様をお招きしてのセレモニーが開催されました。販売開始は2025年8月を予定しており、同工場においてノックダウン生産 (※2) されます。

TEIKOKU USAでは、2016年より冷凍機市場向けキャンドモータポンプにおいてノックダウン生産を開始し、同市場でシェアを拡大してまいりました。一方で、米国のケミカル市場におけるキャンドモータポンプの普及率はまだ非常に低い状況にあり、メカニカルシールポンプメーカーが競合になることが多くあります。メカニカルシールポンプは、ポンプ部分を自社で作り、それに外部から購入したモーターを取り付けているため、非常に短納期でできますが、キャンドモータポンプはモーター部分も含めて個別受注生産しているため、納期が長くなる傾向にあります。

これまでは、TEIKOKU USAの売上の約6割は日本で製造したものを輸出してきましたが、今回の現地ノックダウン生産の拡充により納期の短縮が可能になるため、競争力がつき、米国市場でのキャンドモータポンプの普及に弾みがつくことが期待されます。



(※1) 米国機械学会が定めるキャンドモータポンプ等のシールレスポンプの規格で、米国のケミカル分野等で幅広く使用されています。

(※2) 部品のセットを日本から輸出し、お客様のニーズに合わせて現地で組み立てて納品する生産方式です。

TOPICS

1

「CCUS WORLD / SMART ENERGY WEEK 秋 2024」に出展

2024年10月2日～10月4日の3日間、幕張メッセで開催された「CCUS WORLD ～CO₂の分離・回収・利用・貯蔵 技術展～ / SMART ENERGY WEEK 秋 2024」に出展いたしました。

当社の主力製品であるキャンドモータポンプは、CCS・CCUSの分野においては、液化CO₂の送液ならびに、CO₂の分離・回収に用いられるアミン溶液や、メタネーション設備での各種溶液の移送等、様々なプロセスで使用されています。

今後も、脱炭素市場における当社認知度の更なる向上を目指して、人や地球環境にやさしい「絶対に液漏れしない」キャンドモータポンプのアピールに注力してまいります。



TOPICS

2

「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)」に認定

当社は2025年3月10日に、「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)」に認定されました。この制度は、兵庫県内企業の女性活躍を推進するため、兵庫県と神戸市が共同で2022年に創設したもので、女性活躍や多様な働き方等に積極的に取り組む企業が認定を受けることができます。

当社は2024年7月に女性活躍推進プロジェクトを立ち上げ、社員が働く意欲を高く持ち続け、自己実現と企業貢献にその能力を最大限発揮できる風土・組織づくりを目指して精力的に活動しております。

認定日当日は、兵庫県が主催する「企業×学生ミモザセッション」に参加し、ミモザ企業55社や学生と活発な意見交換を行いました。



TOPICS

3

「阪神タイガース」とサポートカンパニー契約を締結

当社は、地域社会から信頼される良き企業市民として、スポーツ振興等を通じた地域社会活性化への取り組みを継続的に推進しており、2025年4月1日に新たに「阪神タイガース」とサポートカンパニー契約を締結いたしました。

当社が本社を構える兵庫県に本拠を置く「阪神タイガース」とサポートカンパニー契約を締結し、地域の皆様やファンの皆様とともに同チームの更なる活躍を応援してまいります。



©阪神タイガース

また、「阪神タイガース」の本拠地である阪神甲子園球場の1塁側内野フェンスには、当社名が入った広告看板を掲出しており、当社の認知度の更なる向上を図っております。



セグメント別事業の概況

ポンプ事業

ポンプ事業の売上は、中国においてケミカル機器キャンドモータポンプの販売やアフターサービスが減少したものの、日本及び米国においてケミカル機器キャンドモータポンプの販売およびアフターサービスが堅調であったことや、米国やインドにおいて原子力向けの大型案件があったこと等から、全体として増加いたしました。

その結果、売上高は29,289百万円（前期比7.3%増）、連結売上高に占める割合は95.9%となりました。

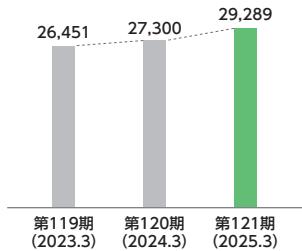
また、営業利益は、売上高の増加や粗利率の改善等により、6,103百万円（同24.4%増）となりました。



売上高

前期比 **7.3%** 増

(単位：百万円)



売上高構成比



電子部品事業

電子部品事業は、2024年12月末をもって事業を停止したことにより、売上高は1,004百万円（前期比38.1%減）、連結売上高に占める割合は3.3%となりました。

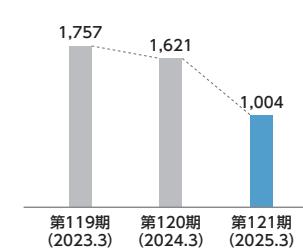
また、営業利益は、売上高の減少等により77百万円の営業損失（前期は61百万円の営業損失）となりました。



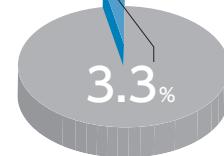
売上高

前期比 **38.1%** 減

(単位：百万円)



売上高構成比



その他

その他は、売上高は252百万円（前期比14.6%減）、連結売上高に占める割合は0.8%となりました。

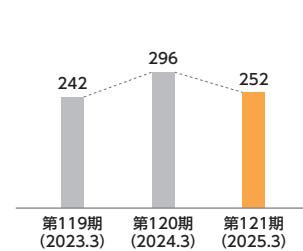
また、営業利益は、売上高の減少等により29百万円（同18.0%減）となりました。



売上高

前期比 **14.6%** 減

(単位：百万円)

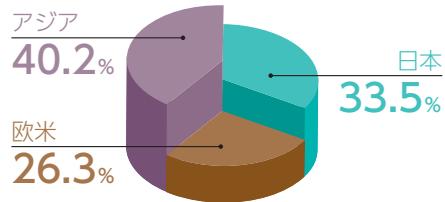


売上高構成比



所在地別セグメント

所在地別売上高構成比



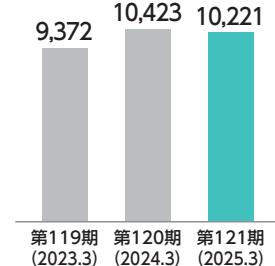
* 販売元を基準とした外部顧客に対する売上高

(注) 1.地域区分は、地理的接近度を考慮して決定しております。

2.本邦以外の区分に属する国及び地域の内訳は、次のとおりであります。(1) 欧米：米国、ドイツ (2) アジア：中国、台湾、シンガポール、韓国、インド

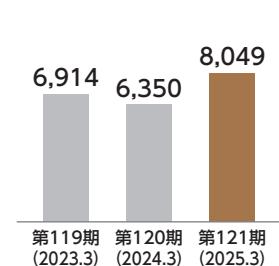
日本 (単位：百万円)

■ 売上高



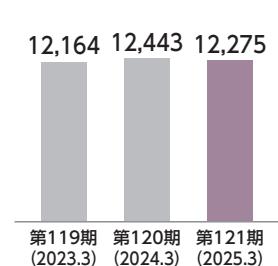
欧米 (単位：百万円)

■ 売上高



アジア (単位：百万円)

■ 売上高



お知らせ

日経CNBC「朝エクスプレス」に出演しました

2025年3月4日に、日経CNBC「朝エクスプレス」内のコーナー「トップに聞く」に当社代表取締役社長 村田 潔が出演いたしました。番組内では、当社製品の特長や業績、今後の事業戦略等をご紹介させていただきました。

当日放送された動画は、下記の二次元コードまたはリンクよりご確認ください。

※動画内での業績、株価等の情報は2025年3月4日放送時点の数値となります。

また、動画の掲載期間は2026年3月9日までです。

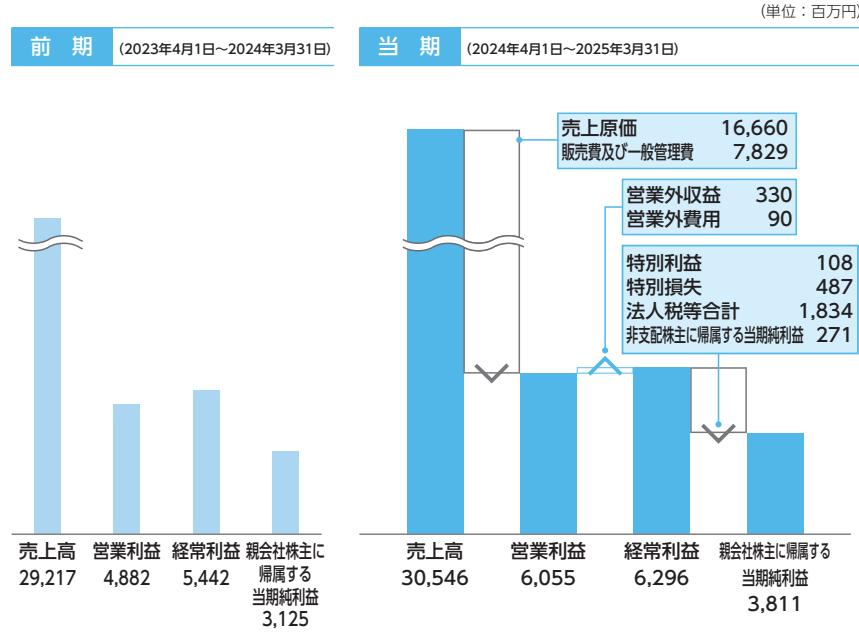


https://www.teikokudenki.co.jp/news/notice/2025/cnbc_1.html

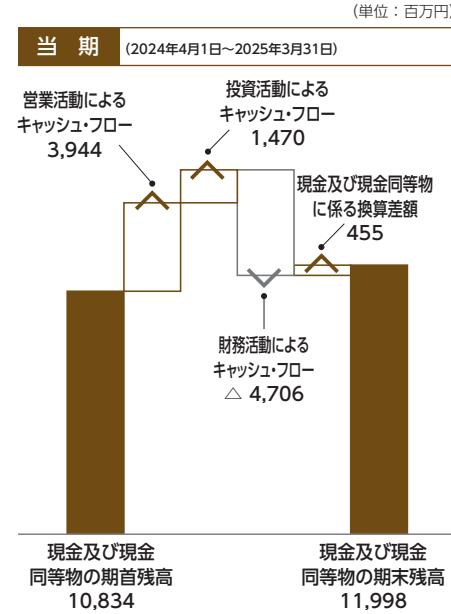


連結財務諸表

連結損益計算書



連結キャッシュ・フロー計算書



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2024年3月31日現在)	当期末 (2025年3月31日現在)	科 目	前期末 (2024年3月31日現在)	当期末 (2025年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	31,279	31,623	流動負債	7,662	7,634
固定資産	10,761	10,772	固定負債	1,911	1,257
有形固定資産	8,658	8,754	負債合計	9,574	8,891
無形固定資産	134	104	純資産の部		
投資その他の資産	1,968	1,914	株主資本	28,664	28,482
資産合計	42,040	42,396	その他の包括利益累計額	3,186	4,256
			非支配株主持分	615	765
			純資産合計	32,466	33,504
			負債純資産合計	42,040	42,396

会社情報／株式情報

会社概要 (2025年3月31日現在)

社 名 株式会社帝国電機製作所
TEIKOKU ELECTRIC MFG. CO., LTD.
設 立 1939年9月12日
資 本 金 31億4,367万5,150円
従 業 員 数 連結 1,107名 単体 317名
本 社 〒679-4395
兵庫県たつの市新宮町平野60番地
Tel. 0791-75-0411 (代表)
ホームページ <https://www.teikokudenki.co.jp/>

役員 (2025年6月26日現在)

代表取締役社長執行役員 村田 潔 社外取締役(監査等委員) 林 晃 史
取締役常務執行役員 佐藤 哲造 社外取締役(監査等委員) 川島 一郎
取締役執行役員 阿部 孝司 社外取締役(監査等委員) 沖 剛 誠
社外取締役 渡真利 千恵 執行役員 杉本 洋一郎
取締役(常勤監査等委員) 加減 孝司 執行役員 森澤 友和
執行役員 横山 淳

グループ会社 (2025年3月31日現在)

- 国内子会社 ・株式会社協和電機製作所
・上月電装株式会社
・株式会社帝伸製作所
・株式会社平福電機製作所
- 海外子会社 ・TEIKOKU USA INC.
・大連帝国キャンドモータポンプ有限公司
*大連大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
・台湾帝国ポンプ股份有限公司
・TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.
・TEIKOKU ELECTRIC GmbH
・TEIKOKU KOREA CO., LTD.
・HYDRODYNE TEIKOKU (INDIA) PVT. LTD.

(注) *は大連帝国キャンドモータポンプ有限公司の子会社であります。

株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数 69,200,000株
発行済株式の総数 16,880,038株
株 主 数 7,114名

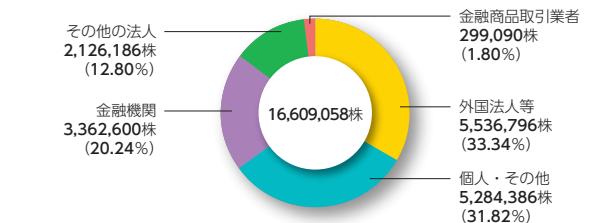
大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,854,300株	11.16%
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,708,500株	10.29%
三菱電機モビリティ株式会社	1,286,400株	7.75%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,196,200株	7.20%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT	581,800株	3.50%
株式会社日本カストディ銀行	494,100株	2.97%
帝国電機取引先持株会	420,900株	2.53%
川田 耕太郎	413,544株	2.49%
株式会社三井住友銀行	410,000株	2.47%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	292,573株	1.76%

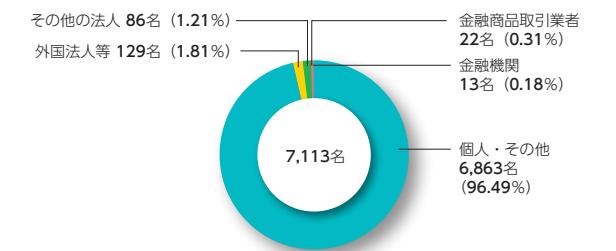
(注) 1.持株比率は自己株式を控除して算出しております。
2.株式会社日本カストディ銀行の所有株式数には、(信託口)、(信託A口)、(年金信託口)、(年金特金口)、(信託口4)の所有株式数を含めて表示しております。

株式分布状況

所有者別株式分布状況



所有者別株主分布状況



(注) 自己株式(1名270,980株)を控除しております。